

27th うえだ城下町映画祭

上田映劇、犀の角
上田市マルチメディア情報センター

2023 11.17金・18土・19日

マルチメディア情報センター 25土・26日

フィルムの陰影、 ビデオの光



主催：うえだ城下町映画祭実行委員会、国立映画アーカイブ

共催：SBC信越放送

協賛：上田市商店会連合会、(一社)長野県情報サービス振興協会東信支部、沓掛酒造、みずゝ鮎本舗、ほか

後援：上田地域広域連合、上田商工会議所、(福)上田市社会福祉協議会、(一社)信州上田観光協会、一般社団法人 上田青年会議所、(一社)長野県情報サービス振興協会東信支部、東京上田会、(公財)八十二文化財団、東日本旅客鉄道株式会社 上田駅、しなの鉄道(株)、上田交通株式会社、信濃毎日新聞社、信州民報社、東信ジャーナル社、週刊上田新聞社、上田ケーブルビジョン、丸子テレビ放送株式会社、(株)エフエムとうみ、信州大学繊維学部、長野大学、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校

特別協力：文化庁／一般社団法人日本映画製作者連盟／全国興行生活衛生同業組合連合会／東映株式会社／東宝株式会社

問合せ：うえだ城下町映画祭実行委員会事務局(上田市文化政策課)

TEL:0268-75-2005(土・日・祝日を除く8:30~17:15)

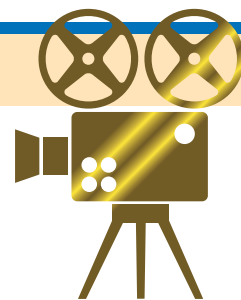
映画祭HP <https://www.umi.jp/eigasai/>

✉ @castletownFF

f @castletownff

映画祭ホームページ





第27回うえだ城下町映画祭の開催にあたって

本日は、第27回うえだ城下町映画祭にご来場いただき誠にありがとうございます。

うえだ城下町映画祭は、上田ロケ作品をはじめとする日本映画の上映、映画関係者のゲストトークなどを行うことで、映画関係者と市民の交流や、上田地域における映画を中心とした映像文化の振興を図ることを目的に開催してまいりました。

27回目を迎えた今回は、“フィルムの陰影、ビデオの光”をテーマに、フィルム関連作品を中心とした9作品を、大正6年創業の歴史ある上田映劇で上映します。

17日(金)は、16mmフィルムで撮影され、フィルムから溢れる光や繊細な陰影が魅力の『ケイコ 目を澄ませて』を上映。

18日(土)は、「もう一度観たい！2022年の日本映画たち」として市民の皆様からいただいた推薦作品の中から、実行委員が最も心動かされたコメントをいただいた『メタモルフォーゼの縁側』を、映写機の歴史や映写技師の思いなどを描く記録映画『旅する映写機』、上田市内もロケ地となった心温まる『おーい！どんちゃん』を上映します。

19日(日)は、国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業から名作『貸間あり』(35mmフィルム上映)、8mm映画作りに熱中する青春を描く『Single8』、中学生の女の子を繊細に描く『満月』(16mmフィルムで撮影)・『世界』を上映。『もっと超越した所へ。』には、上田映劇で撮影されaikoさんが歌う『果てしない二人』のミュージックビデオを併映。上田映劇の魅力を感じながらお楽しみいただければ幸いです。

また、例年多くのご応募をいただいている自主制作映画コンテストは今年で21回を迎え、131作品ものの力作が寄せられました。18日、19日には、表彰式・大賞作品の上映の他に、今年も「犀の角」(海野町)を会場に、ノミネート作品を上映いたしますので、ぜひご鑑賞ください。

最後になりましたが、開催にあたりご協賛・ご後援いただいた皆様、ご協力をいただきました多くの皆様に心より感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

うえだ城下町映画祭実行委員会

総合司会



大岩 堅一 (おおいわ けんいち)

1958年、千葉県木更津市生まれ。早稲田大学教育学部卒。1980年大阪・朝日放送(ABC)に入社。1988年FM長野に移籍「タブロイドラヂオ～レッツ午前中！」などを担当。2006年4月からフリー、SBCラジオなどに出演、各地のイベントの司会。うえだ城下町映画祭の司会は第10回から。現在はFMぜんこうじ、あづみ野FMで番組を担当。信州観光文化検定2級、松本市在住。

映画祭実行委員募集

うえだ城下町映画祭の実行委員として参加してくださる方を募集します。
映画のまち上田の映画祭に参加してみませんか？

お問い合わせは

うえだ城下町映画祭実行委員会(事務局 上田市文化スポーツ観光部 文化政策課)
TEL 0268-75-2005(土・日・祝日を除く8:30~17:15) E-mail:u.castletownff-jimukyoku@city.ueda.nagano.jp

上映スケジュール

上田映劇 開場 17日 18:00・18日 8:30・19日 8:30

11
/
17
(金)

18:00	18:00 開場
19:00	18:30~20:09 ケイコ 目を澄ませて 99分
20:00	
21:00	

11
/
18
(土)

8:30	8:30 開場
9:00	8:50~9:00 開会セレモニー
10:00	9:00~10:58 メタモルフォーゼの縁側 118分
11:00	昼休憩 47分
12:00	11:45~14:10 旅する映写機 105分 ー ゲストトーク ー 加藤 元治さん×榊 祐人さん
13:00	
14:00	14:30~17:45 おーい！どんちゃん 157分 ー ゲストトーク ー 沖田 修一監督 ×おーい！どんちゃん出演者様
15:00	
16:00	
17:00	
18:00	17:55~19:25 自主制作映画コンテスト 賞発表・表彰式
19:00	

11
/
19
(日)

8:30	8:30 開場
9:00	9:00~10:52 貸間あり 112分
10:00	
11:00	昼休憩 48分
12:00	11:40~13:33 Single8 113分
13:00	
14:00	13:54~15:45 満月 28分 連続上映 世界 38分 ー クロストーク ー 小中 和哉監督×塚田 万理奈監督
15:00	
16:00	16:05~18:10 もっと超越した所へ。 119分 + ミュージックビデオ 6分 「果てしない二人」 aiko
17:00	
18:00	18:20~未定 自主制作映画コンテスト大賞作品上映

自主制作映画
コンテスト
上映会

海野町「犀の角」

11/18(土)

9:00~17:29

ノミネート作品
上映

11/19(日)

9:00~17:28

ノミネート作品
上映

上田市マルチメディア
情報センター
TEL.0268-39-1000

11/25(土)・26(日)

上映時間 (後日発表)

自主制作映画コンテスト
受賞作品上映

※上映時間は、各賞発表後に、
映画祭ホームページにて
お知らせします。

11/18(土)・19(日)

見てみよう！映写室ツアー

上田映劇映写室
参加費 1,000円
(事前申込締め切り済み)

18(土)11:05~11:35

19(日)11:00~11:30

11/18(土)・19(日)

8mmフィルム体験コーナー

海野町ふれあいサロン
(申込、参加費不要)

18(土)14:30~16:30

19(日)10:00~12:00

11/19(日)

aikoのサインを見よう！

楽屋ツアー 上田映劇 楽屋
(事前申込締め切り済み)

19(日)18:15~18:30

11.17 金

ケイコ 目を澄ませて

2022年(令和4年)/2022 映画「ケイコ 目を澄ませて」製作委員会
/COMME DES CINÉMAS



© 2022 映画「ケイコ 目を澄ませて」製作委員会/COMME DES CINÉMAS

■スタッフ

監督:三宅唱
脚本:三宅唱 酒井雅秋
原案:小笠原恵子
「負けないで!」
撮影:月永雄太
編集:大川景子
手話監修:越智大輔

■出演

岸井ゆきの 三浦友和
三浦誠己 松浦慎一郎
佐藤緋美 中島ひろ子
仙道敦子

■物 語

ケイコ(岸井ゆきの)は生まれたときから聴覚障害を持っている。

そんなケイコは下町のボクシングジムに通いプロボクサーとして歩み始めたが、試合をかさねるうちにボクシングを続けることに迷い始める。

そんな折、ジムの会長(三浦友和)がジムの閉鎖を決断する。

まっすぐに前を見つめてきたケイコの眼が、自分を探して迷う。

■解 説

2022年12月の公開以来、数々の海外映画祭で上映され高い評価を得た。

国内では「第77回毎日映画コンクール」大賞他5部門、「第95回キネマ旬報ベストテン」作品賞他4部門、「第46回日本アカデミー賞」最優秀主演女優賞など数々の賞を受賞している。

本作品は16ミリフィルムで撮影制作されている。

その映像は、クリアで発色に富んだデジタルの映像とは異なり、フィルムならではの柔らかく奥行きのあるぬくもりに包まれている。

聴覚障害者としてボクシングという過酷なスポーツと向き合う姿を、ケイコをかこむ人々を、フィルムの映像が映し出す。

(増田)

11.18 土

もう一度観たい! 2022年の日本映画たち メタモルフォーゼの縁側

2022年(令和4年)/2022「メタモルフォーゼの縁側」製作委員会



© 2022「メタモルフォーゼの縁側」製作委員会

■スタッフ

監督:狩山俊輔
原作:鶴谷香央理
脚本:岡田恵和
製作:沢桂一 鳥羽乾二郎
長澤一史
エグゼクティブ
プロデューサー:伊藤響
プロデューサー:河野英裕
谷戸豊 大倉寛子
撮影:谷康生
美術:小池寛

■出演

芦田愛菜 宮本信子
高橋恭平(なにわ男子)
古川琴音 生田智子
光石研

■物 語

佐山うらら、17歳、女子高生。市野井雪、75歳、一人暮らし。年の差58歳のふたりをつないだのは、男子たちの恋物語ボーイズ・ラブ(BL)だった。

ひょんなことから出会ったふたりは、BL愛を語り合う中で、かけがえのない友達となる。

「うららさんは自分で漫画を描きたいと思わないの？」

雪の問いかけをきっかけに始まったふたりの挑戦は、あるメタモルフォーゼ(=変身)をもたらしていくことになる――。

■解 説

好きなものを通して人と繋がる。

これを読むあなたには、そんな経験があるだろうか。

もしも「ある」ならば、これはあなたの物語。

まだ「ない」のであれば、これは未来のあなたの物語。

自分の好きなものを誰かと共有する嬉しさや緊張、そして愛おしさが『メタモルフォーゼの縁側』には詰まっている。

何かを好きになること、好きなものを人と共有すること、そこに年齢は関係ない。

歳が離れていても友情は結べるし、好きなものはいつだって新しい世界へと導いてくれる。

鑑賞後、胸に広がるであろうあたたかな気持ちを、わたしはこれを読むあなたと共有したい。

(上田映劇スタッフ/もぎりのやぎちゃん)

旅する映写機

2013年(平成25年)/2013「旅する映写機」製作委員会



© 2013「旅する映写機」製作委員会

■スタッフ

製作・監督・撮影: 森田恵子
構成・編集: 四宮鉄男
音楽: 遠藤春雄
語り: 中村啓子
協力: 永吉洋介

■出演

加藤元治 小松秀吉
田村修司 ほか

■物語/解説

「旅する映写機」は、かつて主流だった35mmフィルム映写機(以下、映写機)とそれを扱う裏方の人たちに光をあてた記録映画だ。

折しも時代は映像のデジタル配信化が急速に広まり、従来の映写機が姿を消しつつある頃。森田恵子監督は映写機のことを記録するなら今しかない、と、前作の「小さな町の小さな映画館」で舞台となった北海道浦河町の「大黒座」を皮切りに、全国各地へ映写機巡りの旅に出る。映写機を求めて出たはずの旅は、いつしか映画が好きで映画を楽しんでももらいたいと頑張る人たちの思いや暮らしぶりなども捉えていく…。

各地の映画館主や映写技師、映写機修理技術者たちの体験談はどれも興味深く、現役で今も動くカーボン映写機(昭和二十年代に製造)や幻の映写技術“流し込み”には思わず目を見張る。普段

目にすることが出来ない映画館の舞台裏やその土地に息づく映画館の様子を知れるのは楽しく、みな映画と共に生きていると思うと感慨深い。全体的にはほんわかしている作風は森田監督のお人柄が所以か。「映画にまつわる三部作」の内的一篇である本作は、今夏、「逝ける映画人を偲んで2021-2022」の上映作品の一本として、国立映画アーカイブに所蔵された。映画祭の場で制作エピソードをお聴きしたかった。

(Nitta)

「旅する映写機」ゲストトーク



加藤元治さん(映写機修理技術者)

1941年生まれ。1961年頃に映写機メーカーの高密工業に入社し、映写機修理技術者として従事。外国、東京都内および地方の劇場において、開館や閉館における映写機の搬入・搬出など千箇所以上を手がける。現在はフリーランスの映写機修理技術者として活動し、四国の公民館やホール等5箇所余りの映写機を毎年点検する他、東京都内の劇場数箇所の映写機の点検を行っている。2012年にはテレビ番組「NHKクローズアップ現代」に出演。2021年公開の映画『キネマの神様』では、俳優へ映写指導を行う。



榎 祐人さん(配給元)

1984年生まれ。東京都出身。自身が幼少期から過ごした多摩ニュータウンを舞台に、長編映画『たぬきがいた』(14)を制作・劇場公開。2作目の『10年後の君へ』(21)は第19回うえだ城下町映画祭自主制作映画コンテストで大賞、第3回萩ibasho映画祭のグランプリを受賞。2023年には、森田恵子監督から引き継いだ植物に関する映画『小さな庭の大きな宇宙』と、山口県萩市にある映画館を舞台にした『さよなら萩ツインシネマ』が完成。現在は、故 森田恵子監督作品の配給も手がけている。

「もう一度観たい! 2022年の日本映画たち」とは、2022年公開の日本映画の中で、もう一度観たい作品を、推薦コメントと共に募集し、実行委員が最も惹かれた推薦コメントの作品を上映する企画で、多くの方にご参加いただきました。他の方の推薦文も、映画祭のホームページでお読みになれます。

こちらのQRコードからご覧ください。



こちらのURLからもご覧になれます。
<https://www.umic.jp/eigasai/kikaku.html>

上田市商店会連合会

上田市大手1-10-22 上田商工会議所内
TEL (0268)22-4500

11.18 土

上田ロケ作品 おい！どんちゃん

2022年（令和4年）／沖田修一



© 沖田修一

■スタッフ

監督・脚本：沖田修一
撮影：道川昭如と手のあいた人
録音：落合諒磨と手のあいた人
音楽：澤口希

■出演

どんちゃん 坂口辰平
大塚ヒロタ 遠藤隆太
師岡広明 宮部純子
宇野祥平 黒田大輔
山中崇

■物 語

3人の売れない役者の男たち。道夫と郡司、そしてえのけん。

みんな独身で共同暮らしをしていたのだが、ある日その家の前に乳母車に乗った赤ちゃんが置かれていた。3人は、とまどいながらも、その子を「どんちゃん」と名付け、友達カップルの坂本とあかりの助けも借りながら育てることになる。

季節は過ぎ、成長していくどんちゃん存在は、彼らの人生をちょっとずつ動かしてゆく。

■解 説

「南極料理人」や「おらおらでひとりいぐも」、「さかなのこ」などの沖田修一監督には生後半になる赤ちゃんがいた。

監督は、その娘さんを出演させて何か短いドラマを作ってみようかと考える。

ワークショップで出会った俳優たちと一緒に、自分たち自身でハンディーカムで撮影、録音しながらその映画作りがはじまる。

2014年にはじまった撮影は、思いの外長く続き、2017年の撮影終わりには、娘さんはセリフを喋るまでになっていた。

それからゆっくり仕上げられ、出来上がったのが2021年。

沖田監督が個人で制作した、ドキュメンタリーのような、ドラマのような、ちょっと不思議で暖かい世界。

(Chihiro)

「おい！どんちゃん」ゲストトーク



沖田修一監督

1977年生まれ。埼玉県出身。『このすばらしきせかい』（2006）でデビュー。『南極料理人』（2009）が公開され、映画賞など受賞。『横道世之介』（2013）では、第56回ブルーリボン賞最優秀作品賞など受賞。他の作品に、『おらおらでひとりいぐも』（2020）、『子供はわかってあげない』（2021）、『さかなのこ』（2022）など。

11.19 日

貸間あり

1959年（昭和34年）／宝塚映画



■スタッフ

原作：井伏鱒二
脚本：藤本義一
脚本・監督：川島雄三
撮影：岡崎宏三
音楽：真鍋理一郎
美術：小島基司

■出演

フランキー堺 淡島千景
乙羽信子 浪花千栄子
清川虹子 桂小金治

■物 語

大阪・天王寺を舞台に、通天閣を見渡す高台の長屋に暮らす個性的な住人たちをめぐるドタバタ喜劇。

フランキー堺演じる主人公の与田五郎は外国語に堪能なインテリで、長屋でコンニャクを製造しながら小説、論文、翻訳などの代役を引き受ける何でも屋。

新たにこの長屋の住人となる陶芸家のユミ子（淡島千景）が五郎に恋心を抱き積極的にアプローチしてくるも、「積極的逃避」をモットーとする五郎はのりくらりとかわし、二人の仲は進展しないまま。

五郎が大学受験の替え玉を引き受けることになったことから舞台は九州へ。

ユミ子も五郎を追って九州に向かう。

エキセントリックな変わり者たちがくり広げる活力あふれる人間喜劇。

■解 説

「サヨナラだけが人生だ」。

喜劇映画作家・川島雄三の後期の代表作。

戦後復興期の荻窪北口マーケットを舞台にした井伏鱒二の同名小説が、当時若脚本家であった藤本義一と川島監督によって大胆に脚色され、大阪を舞台にしたエネルギーあふれる怪作となった。

俗物ばかりで猥雑さに満ちていながらも、不思議と、映像美や個性的な面々の人生のスタイルに魅了されてしまうのは、「軽佻派」を志向した川島喜劇映画ならではの。

(どろんぼ)

Single8

2022年(令和4年)/『Single8』製作委員会



©『Single8』製作委員会

■スタッフ

監督・脚本:小中和哉
音楽:宮崎道
製作:
小中明子(Bear Brothers)
山口幸彦(キングレコード)
関顕嗣(ふれぱり)
撮影監督:藍河兼一
編集:松木朗
美術:小中和哉
特殊視覚効果:泉谷修

■出演

上村侑 高石あかり
福澤希空(WATWING)
桑山隆太(WATWING)
川久保拓司 北岡龍貴
佐藤友祐(lol) 有森也実

■物 語

『Single 8』の舞台は1978年、『スターウォーズ』公開当時の日本。

壮大なスケールのSF映画に魅せられた高校生の栗田は、同級生の小沢や佐々木と一緒に、宇宙船のミニチュアをつくり、8ミリカメラのシングル8で撮影を始める。

先輩や担任教師に励まされ、憧れの夏美にヒロインを頼み、やがてはクラス中を巻き込みながら、映画づくりの「夏」は続く。

■解 説

「シングル8は魔法のランプだった。それに触ればなんでもできと思っていた」と手塚眞は語っているが「魔法のランプ」の魔力に取り憑かれ他高校生や大学生が当時はたくさんいた。

熱に浮かされたような「映画づくり」の悲喜交々。二度と戻らないかけがえのない季節。そんな日々のことを小中和哉監督は、淡い「初恋」の記憶とも重ねて作品にしている。

成蹊高校時代に監督がつくった作品の数々が映画のあちこちに埋め込まれていて、それも『Single 8』の魅力になっている。

(Kaz)

2作品連続上映

満月

2020年(令和2年)/塚田万理奈



■スタッフ

監督・脚本・編集:塚田万理奈
プロデューサー:今井太郎
撮影:芳賀俊
音響:杉本崇志

■出演

満月
河野真由美

世界

2023年(令和5年)/塚田万理奈



■スタッフ

監督・脚本・編集:塚田万理奈
プロデューサー:今井太郎
撮影:芳賀俊
音響:杉本崇志
音楽:玉井夕海

■出演

涌井秋 玉井夕海
山本剛史 池田良

■物語/解説

地方に住む中学生の女の子を主人公にした短篇ふたつ。

彼女たちが住む町を囲む山のように、抑圧するものが無言でじっと取り囲む。親、学校、死…。

彼女たちの日常をカメラはじっと見つめ続ける。

親への口ごたえ、かたくなな伏し目から、実は彼女たちが彼女たちなりに抗っていることがわかってくる。

訪れるクライマックス。激しく、また静かに、彼女たちの内側の熱が発露されて映画は終わる。まだつながらない、しかしつながる可能性だけを

たくましく提示する「満月」と「世界」。繊細かつ強靱な映画である。

塚田万理奈監督が故郷の長野市で撮影している映画「刻」は、地元の中学生たちと10年のときをともに過ごし劇映画を撮ろうという壮大なプロジェクト。

撮影には16ミリフィルムを使用。その関連作である「満月」にもフィルムが使われている（「世界」はデジタル）。

「満月」「世界」は3大映画祭に次ぐグレードのロッテルダム映画祭にも招待された。

(古厩)

**「Single8」小中和哉監督
×
「満月」「世界」塚田万理奈監督
クロストーク
司会：古厩智之監督**



小中和哉監督

1963年生まれ。兄・千昭（現脚本家）と共に小学生のころから8ミリ映画を作り初め、中学2年『CLAWS』（76）で初監督。成蹊高校映画研究部、立教大学SPPで自主映画を撮り続け、1986年文芸坐出資の『星空のむこうの国』で商業映画デビュー。代表作：映画『四月怪談』（88）、『くまちゃん』（93）、『ULTRAMAN』（04）、『七瀬ふたたび』（10）、『赤々煉恋』（13）、『VAMP』（14）、TVシリーズ「ASTRO BOY 鉄腕アトム」（04）、『いいね！光源氏くん』（21）など。



塚田万理奈監督

1991年長野市出身。日本大学芸術学部映画学科監督コース卒業。卒業制作『還るばしょ』が、第36回びあフィルムフェスティバル入選、第8回田辺・弁慶映画祭文化通信社賞受賞、第12回うえだ城下町映画祭自主制作映画コンテスト審査委員賞受賞、第9回福井映画祭入選。初の長編映画となった『空(カラ)の味』が第10回田辺・弁慶映画祭で弁慶グランプリ・女優賞・市民賞・映検審査員賞と史上初の4冠に輝き、東京テアトル新宿、長野松竹相生座口キシー始め、全国公開を果たす。2020年の短編『満月』は、Spain Moving Images FestivalにてBest Asian ShortFilm受賞。現在、16mmフィルムで10年かけて撮影する映画『刻』を制作中。

もっと超越した所へ。

2022年(令和4年)/2022「もっと超越した所へ。」製作委員会



© 2022「もっと超越した所へ。」製作委員会

■スタッフ

原作・脚本：根本宗子
監督：山岸聖太
音楽：王舟
主題歌：aiko

■出演

前田敦子 菊池風磨
伊藤万理華 オカモトレイジ
黒川芽以 三浦貴大
趣里 千葉雄大

■物 語

デザイナーの真知子、ショップ店員の美和、風俗嬢の七瀬、元子役の鈴は、問題ばかりの男と付き合っていた。しかし、4人はそれなりに幸せな生活をしていた。

そんなある日、彼女らに同時に別れの危機が訪れる。やがて、彼らの本音と過去の秘密が明らかになり……

■解 説

主題歌のaikoさんの楽曲『果てしない二人』のMVが、上田映劇で撮影されており、この映画を上田映劇で上映したい！と強く思いました。

主題歌が流れる時に、実際にMVが撮影された場所で鑑賞できるという上田市でしか味わえない体験を、ぜひ皆さんにしていいただければと思います。

また、本編上映後、aikoさんのMVも特別に上映します。うえだ城下町映画祭で推し活を思う存分楽しんでいただければ幸いです。

本編は、俳優さんたちの演技から熱いものが伝わってきます。

ダメ男ばかり出てきますが、女性の強さが光り、主人公たちを応援したくなり、明日からも自分も頑張ろうという前向きな気持ちにさせてくれる映画だと思います。

(Y)

第21回 自主制作映画コンテスト 11.18^土・11.19^日 海野町「犀の角」

■大賞作品、各審査員賞作品の発表は18日(土)の上田映劇の表彰式で・大賞作品は19日(日)上田映劇で上映

11.25^土-11.26^日 / 上田市マルチメディア情報センター ホール ◎受賞作品上映会：時間未定(後日発表)



「ブライトロード303号室奥田美紀様宛て」2023年(98分) 監督＝白田悠太



【あらすじ】 バイトを転々としながら出会い系で知り合った女性と一晚だけの関係を繰り返し自らの人生や家族との関係に悩む春子と、ヨガの教室を一人で経営しながら生徒や息子との関係に悩みを抱える美紀。コロナ渦の東京に生きる孤独なレズビアン女性2人の日常が次第に交錯し、人生の分岐点を迎える。

＜作品のメッセージ＞ コロナ禍の東京に生きる2人の孤独なレズビアン女性が出会い、2人がそれぞれ有耶無耶にしてきた家族との関係に向き合っていくところまでを描きました。この物語には私自身が性的マイノリティとして実際に経験したことや現在抱えている苦悩が多く描かれています。また、メインで出演してくださった4名の役者さんたちと行った即興演技や対話を通して得たことなども多く脚本に反映されています。エンターテインメントとして消費されることのない性的マイノリティの日常と苦悩を描いた作品を目指しました。

＜監督自己紹介＞ 茨城県日立市出身。2020年に映画美術学校23期フィクションコース初等科を修了。2021年に監督した短編映画『みんなバカ野郎だ』が関西ウキ映画祭や那須ショートフィルムフェスティバルなどに入選。2022年にその続編となる中編映画『僕らの存在を聴け』を監督し、うえだ城下町映画祭第20回自主制作コンテストで審査員賞(植靖司賞)を受賞し、おおぶ映画祭2023映画祭「映画の可能性部門」や第21回中之島映画祭コンペティションに入選する。

第21回 自主制作映画コンテストノミネート作品 (順不同)



【さまよえ記憶】

2023年(24分33秒)

監督＝野口雄大

さまよえ記憶

【あらすじ】 佐藤詩織は、行方不明になった息子・隆の行方を探し続けていた。ある日「欲しい情報」と「それに見合った価値のある記憶」を交換できる情報屋と出会い、引き込まれていく詩織。今を生きて

欲しいと願う父・英樹は、詩織を守ろうと奮闘する。だが愛する息子に再会するため、詩織は自身の大切な記憶を預けてしまい…。

作品のメッセージ 「大切な人を失った時、人はその悲しみとどう生きるのか」今作は17年前に私の友人がある日突然、行方不明になった事実に基づいて作っています。当時、私が目にしたもの、耳にしたこと、感じたこと、すべての記憶と向き合いながら作りしました。鑑賞後、この映画が皆さんの中で“さまよって”くれたら…。そう願っています。

監督自己アピール 映像作家。日本大学芸術学部放送学科卒業。連続テレビ小説「エール」、大河ドラマ「どうする家康」を演出。よるドラ「恋せぬふたり」は第40回向田邦子賞、第59回ギャラクシー賞「特別賞」、第77回文化庁芸術祭賞「優秀賞」を受賞。



【エイジオブエターナル】

2023年(65分)

監督＝目黒貴之

【あらすじ】 サチオは売れないピン芸人。しかし、売れずとも「ピン」にこだわっているのには訳がある。それは小学6年生の時の親友「エイジ」との約束があったからだ。エイジとサチオは、いつでも一緒にクラスメイトの人気者だった。が、大人になったサチオには熱狂的な女性ファンが1人いるだけ。バイトもクビになり先輩芸人とはソリが合わず劇場に観にきてくれた少ない客とも喧嘩をしたりと、なにをやってもうまくいかない。そんな中、心を許せる人物がただ1人だけ現れる。それをよく思わないでいる女性ファン。エイジとの約束を忘れられないサチオはそれでもエイジを想い今夜も独りで舞台上立つ。

作品のメッセージ 小学校時代の相方よしだえいじくんは毎朝必ず遅刻をしてるので先生に怒られてばかり。だから毎日、「神様!あと10分で遅刻です。どうかこの10分と僕の寿命の1年分とを取り替えっしてください!」と祈って走るんだ、と話してくれたことがあった。一方、えいじくんは手のひらの生命線をコンパスの針で切って長く伸ばしてるとも教えてくれた。それから20年後の大晦日。単独事故で怪我をしている人を助けようとして、後ろから来た車に跳ねられたらしい。仔犬を拾って抱いていた、えいじくんを思い出す。一度だけ、二人で漫才やったなあ。目黒がテレビに出たら、「逆立ちしながら縄跳びして校庭を一周してやる」の約束は守ってもらえなかった。そんなえいじくんのことを僕は書いてみようと思い企画しました。

監督自己アピール 初監督作短編映画「単線、日々」が数々の映画祭にノミネート。受賞もする。今作で二作目にして長編に挑戦。出身地福島映画館での上映も控えている。



【最後の生活】

2022年(22分)

監督＝渡邊高章

【あらすじ】 父を亡くしてから学校へ行かなくなった小学生の春陽の元に、母の兄である小説家の「おじさん」がやってきた。春陽とおじさんの心の交流を描いたある夏の物語。

作品のメッセージ 本作のメッセージは、星城豊さん演じる主人公の叔父さん

の台詞「全てうまくいくわけじゃない。それでも、うまくいかなかったことも大事にした

なければならない」に集約されていると思います。また、個人的なことですが、もう一人の主人公の春陽を演じてくれた私の息子にとって、役と彼の体験が重なることがあり、将来本作が彼にとって前向きな気持ちになれるツールになってくれたらと願っています。

監督自己アピール 日本大学芸術学部映画学科監督コース卒。商業映画やドラマの演出部と制作部で研鑽を積み、現在は会社員の傍ら映像制作を行っている。2021年、『土手と夫婦と幽霊』が劇場公開、自ら宣伝・配給活動を行い、各地ミニシアターや映画祭等で上映された。



【ドキュメント石垣 2023年3月陸自ミサイル基地開設の瞬間】

2023年(20分)

監督＝湯本雅典

【あらすじ】 2023年3月、沖縄県石垣島で

は陸上自衛隊石垣駐屯地開設のための作業、ミサイル発射台車両を含む軍用車両と弾薬の陸揚げから搬入が一気に行われた。駐屯地ゲートでは自衛隊員が自動小銃を携行し、自衛隊員は市街地の宿舎から迷彩服で出勤する。この日常が本土に報道されない中で、その一部始終を映像で伝える。

作品のメッセージ 本土にはほとんど伝わらないことが、実は今の国の重要政策であったことに気づき、2018年から石垣島に通い映像を撮りためて作品化してきました。今回は、その決定的局面で16日間石垣島で撮り続けた結果です。プロでない自分が、なぜそこまでするのか自問自答もありましたが、その答えを出す前に、厳しい現実が立ちちはだかっていたのです。大げさかもしれませんが、この取材は人としてどう生きるのかを考えた過程でもありました。

監督自己アピール 2006年まで東京都の公立小学校の教員、51歳で自主退職。以降、自営業をやりつつ自主映画の製作、自主上映を行う。テーマは、福島、選挙、憲法、沖縄。



【恋も噂も七十五日】

2023年(75分)

監督＝新庄凜子

【あらすじ】 かつて一世を風靡した都市伝説・口裂け女。コロナ禍の現代に生きる、ある口裂け女は仲間たちが忘れ去られ消えていくなか、一人取り残されていた。「私、キレイ?」と声をかけても振り向く人間は居らず、友人もトイレの花子さんだ一人。そんな彼女はある日、エイトと名乗る男と出会い、恋に落ちる。

作品のメッセージ 果たして、貴方の記憶の中の“誰か”は“真実の姿”なのだろうか。本来のその“誰か”の生き方を想像したことはありますか? 人々の記憶、理想、恐怖によって生み出された都市伝説・口裂け女の姿を借りて、人々の存在について学生たちが問いかける、ラブストーリー。

監督自己アピール 高校時代、とあるドラマの公式Twitterで美術セットの写真を見たことがきっかけで京都芸術大学映画学科に入学。主に美術と脚本を学ぶ。『恋も噂も七十五日』ではじめてオリジナル長編映画の脚本・監督を務める。



【たまには蜂蜜を。】

2023年(19分)

監督＝邊 拓耶

【あらすじ】 台所に朝日が差し込む。お湯を沸かしやかんの注ぎ口から立ち昇る水蒸気が冬という事を教えてくれる。そんないつもの朝……そこへ3年ぶりに弟が帰って来る。夢を追い家族から離れた弟、想うがゆえに静かに見守ってきた兄、そ

第21回 自主制作映画コンテストノミネート作品

んな家族を愛で包み込んできた母、それぞれの想いがぶつかる。オープニングからエンディングまで全編ワンカットで挑む1人1人の愛を映し出すヒューマンドラマ。

作品のメッセージ 夢を追いかけて辛くなっている人…大切な人を遠くから支える家族・恋人・友達…そんな方達へ、この作品を通して少しでも私達の想いを届けたい。

監督自己アピール 俳優業では2020年公開「DEAD OR DIE」で《Across the Globe Film Festival》において助演俳優賞を受賞するなど、映画や舞台、MVなどでマルチに活躍。監督としては、この作品が初監督作品となる。



【私の愛を疑うな】

2023年(28分)

監督＝浅田若奈

あらすじ 二人暮らしをしている幾島縁奈(25)と出水朝陽(25)は家族でも恋人でもなく友達である。しかし周囲からは恋人に見なされたり、「遊んでられるのも今

のうち」と期間限定的の関係だと決めつけられたりする。二人の関係が疑われ、軽んじられる言葉に怒りを感じ、やるせないさに傷ついてしまう。二人は自分たちの存在を証明するためにある行動に出る。

作品のメッセージ 人と人との関係性は多様で誰とどのような関係を結ぶかは自分で決めて良いことを描きたいと思い、製作しました。家族や恋人と言った関係性を選ばずとも、大切であることは変わりなく、いないことにされたくないです。

監督自己アピール 大阪出身。学生時代に映画部に所属し、映画作りの楽しさに目覚める。上京後、ニューシネマワークショップにて映画作りを学ぶ。温かいお茶と女と女の物語が好き。本作はカナザワ映画祭期待の新人監督に入選、関西クィア映画祭では最優秀観客賞を受賞した。



【春の結晶】

2023年(22分)

監督＝安川徳寛

あらすじ インスタントカメラを通し見つめ合う璃子と優香。別れ際の2人は頬を寄せ写真を撮る。最後の1枚。優香の彼氏が現れ、カメラを手にし、優香の写真を撮る。彼氏にしか見せない優香の表情。璃子は特別な感情に気づく。

作品のメッセージ インスタントカメラのフィルムカウンター残数と、ある季節の終わり(別れまでの時間)とを重ね、1人の女性が刹那的な感情に向き合い、受け入れ、受け止めて成長する姿を描きました。物語の中で描かれている出来事は特別なものではありません。しかし、その中でも人として大切な感情の変化が存在します。この作品を見た方々が自分の感情を大切に、人を想う心の尊さに改めて気づいていただけたら幸いです。

監督自己アピール 長野県出身。2006年から映像業界で活動を開始。早乙女太一のPVや、中山優馬のMV、舞台『KINGDOM』ティザー映像などを手掛ける。2022年末『もしもかして、ヒューヒュー』が公開。BSテレビ東京『婚活食堂』の監督を務める。



【ゴミ屑と花】

2023年(29分56秒)

監督＝大黒友也

あらすじ 自衛隊航空パイロットを辞め、ゴミ収集の仕事を始めた尾崎浩一(33)。浩一の指導員・橋本花(20)と共に深夜のゴミ収集を始める。ゴミを回収していく中で汚物、悪臭にまみれたゴミに圧倒される。様々な人の眼差しを

受けながらも、ひたむきに働く花に浩一は生き方にある種の『美しさ』を感じる。誰に称賛されるわけでもない影の功労者——アンサンブルヒーローの物語。

作品のメッセージ 人はそれぞれに『大切なもの』を抱えて生きていくと思います。この映画は、普遍的な『大切なもの』を失いかけた主人公がそれを再発見する旅の物語です。助監督を10年間してきた経験を生かして、その『大切なもの』をテーマにささやかな表現を試みました。この作品が、観客のみさんの心に触れ、何かを感じてもらえたら幸いです。

監督自己アピール 1987年愛媛県生まれ。日本映画学校 映像学科〈現 日本映画大学〉を卒業後、演出部として映画業界に入る。日本映画界を牽引する中田秀夫監督、黒沢清監督、三池崇史監督たちの現場で助監督を務め、多数の映画・ドラマに就く。



【そろそろ音楽をはじめようと思う】

2023年(128分)

監督＝小野親一

あらすじ ある日小さなライブハウスで互いのパフォーマンスに感化され、自分と正反対のような性格の違いを認めな

がらも意気投合したダイと大野。二人は次第に距離を縮めお互いの恋人を紹介する程の仲になるのだが、...。不器用な30代男達の音楽、恋愛、仕事、友情。本作の監督と主演男優の長年の付き合いにおける笑いあり涙ありの半実話(?)の物語。

作品のメッセージ ほとんどの出演者は役者ではなく主にミュージシャンで構成されています。日本に音楽を題材とした映画は沢山ありますが、今までにない方向性

で尚且つエンターテインメント性の強い作品を目指して制作しました。音楽を題材とした作品ですが、誰が観てもわかるような親しみやすい内容となっております。

監督自己アピール サラリーマンをしながら音楽活動をしていましたが40歳過ぎってから未経験ながら映画制作にチャレンジしました。今までの人生経験や人脈を生かした作品、特に音楽を題材とした日常的な作品が自分の武器だと思っています。



【にびさびの巣】

2022年(41分)

監督＝岡田 深

あらすじ 東京で暮らす晴人は祖母である悦子の死をきっかけに変わりゆく人や街、時間の変化に戸惑い生き辛さを感じて

いた。そんなある日、晴人へ姉から「家がなくならない」と連絡が来る。そしてその内容には祖母からの遺言が書き綴られていた。巣立ったツバメはまだ子供のまま、帰る場所を探していく。

作品のメッセージ 今回の映画は「記憶の共有」が大きなテーマとなり、遠い場所から記憶を頼りに同じ場所に帰燕する燕をモチーフとし「星の王子さま」から着想を得ることで初監督作品として「人には人の帰る場所がある」という普遍的なテーマを描きます。

監督自己アピール 1992年生まれ。石川県出身。2012年New York Film Academy ミュージカルコースを修了。現在東京にて、映画を中心に俳優活動を行っている。2021年山形国際ムービーフェスティバルにて最優秀俳優賞(船越英一郎賞)受賞。今作は第23回TAMA NEW WAVEコンペティション部門に入選。



【ゴールド】

2022年(128分)

監督＝知多 良

あらすじ 東正社員のミキと、フリーターの弘樹。二人は高円寺の路上ライブで偶然出会い恋人になる。ミキの自立した強さに惹かれ憧れた弘樹は正社員になる。仕事と生活の間で様々な人達に出会い、なにかがズレていく2人。それでもミキは弘樹と一緒に居たかった。同じ時を過ごしたかった。

作品のメッセージ この映画は2人の男女の「生活」と「仕事」と「恋愛」の始まりから終わりを描いた映画です。そして恋愛の中で出会った多様な人達を描いた映画です。終わりのある時間の中で、誰かとともに生きていくことを考えながら物語を作りました。大切にしているものを傷つけられたり、それなのに誰かを傷つけてしまったり。簡単に誰かを加害者や被害者と決めつけず、1人の人間の中の多様性を描くことを心がけました。この映画が、この先の現実を生きている誰かの糧になったら嬉しいです。

監督自己アピール ニューシネマワークショップ出身。2023年、池袋シネマ・ロサにて監督特集が1週間開催される。



【平坦な戦場で】

2023年(79分)

監督＝遠上恵未

あらすじ 高校2年、冬。のぶえと村木は仲睦まじく過ごしていた。ある夜、村木は路上で泣いていた女性を家まで送り届けるも、突然女性から「お金は払うから、

抱いてほしい」と頼まれてしまう。その頃には、場の空気が断れなくなっており、村木は女性を抱くことに。しかし、この経験がトラウマになった村木は学校を休むようになる。のぶえは村木のいない日常に孤独を募らせていく。

作品のメッセージ この映画の中で起こる出来事や、登場人物たちの言葉から透けて見える価値観は「正しい」ものではないかもしれませんが。それは誰かを傷つける可能性もあるでしょう。しかし、彼女たちの価値観、境遇は、決して他人事ではないかもしれない。思いを巡らすきっかけとなれたら本望です。

監督自己アピール 20歳の頃にたまたま観た『鬼龍院花子の生涯』の衝撃が忘れられず、映画制作を始める。ENBUゼミナール在学中に監督した『遠上恵未(24)』がPFFアワード2020に入選。本作が初長編作品。



【abend】

2023年(29分)

監督＝高橋佑輔

あらすじ 謎の外資系IT 企業に就職した新人プログラマーの佐藤は、プログラミングの研修宿舎に

行くことになる。ワンボックスカーで人里離れた研修所に連れて行かれた佐藤たちの前に現れたのは、殺気立ったプログラミング講師・大藤だった。大藤の指導方法は常軌を逸していた。地獄のプログラミング研修が始まる...!

作品のメッセージ プログラミングとヘヴィメタルを組み合わせた作品を撮りたいと考え、企画しました。作中にブラック・メタルを取り入れ、主人公の内に秘めた能力が目覚めていくのを、ミュージカル的手法で表現しました。誰もが狂気を解放し、新たな価値を作り出す力になればと思います。

監督自己アピール 北海道札幌市出身。現在は東京・渋谷を拠点に映画制作を行っている。地元北海道で撮影した監督作『白獣』は「日本芸術センター第13回映像グランプリ」でグランプリ、京都国際映画祭クリエイターズ・ファクトリー2021で審査員特別賞を受賞し、2023年1月に池袋シネマ・ロサで公開される。

第21回 自主制作映画コンテスト審査員プロフィール



大林 千葉莫
(おおばやし ちぐみ)

映画家／料理家。10歳頃から「キネマ旬報」に映画評を投稿し、12歳で大林宣彦劇場デビュー作『HOUSE』(1977)の原案を担当。16歳から昭和天皇の料理番・渡辺誠氏に師事。国際儀礼(テーブルマナー)講師を務めるほか、部員8千人の【ホットサンド倶楽部】を主催。「マツコの知らない世界」にホットサンドブームの火付け役として出演。監督作『100年ごはん』(2013)は“映画を観て+同じ釜の飯を食べ+語り合う”というオリジナルな上映方式にて、日本のみならず世界各国250カ所で上映され現在も巡回中。著書に『100年ごはん』の上映活動を綴った『未来へつなぐ食のバトン〜』(ちくまプリマー新書)、レシピ本第2弾『ホットサンド倶楽部』(シンコーミュージック)ほか。



栢植靖司
(つげ やすし)

プロデューサー。1954年岐阜県生まれ。日本大学芸術学部映画学科卒。学生時代よりフリーランスの制作マンとして映画、TVドラマ、CMの製作現場に従事後、ヘラルド・エース、バンダイ・ビジュアル、アスミック・エースエンタテインメントを経て、2008年個人事務所「C&P」を設立し、映像プロデュースを続けている。1998年「HANA-BI」、2002年「阿弥陀堂だより」、2008年「西の魔女が死んだ」など多数の作品のプロデューサーを務める。



古厩 智之
(ふるまや ともゆき)

映画監督。1968年長野県生まれ。日大芸術学部時代に撮った「灼熱のドッチボール」が、1992年ぴあフィルムフェスティバルでグランプリ受賞。1994年「この窓は君のもの」でバンクーバー映画祭「ドラゴン&タイガー・ヤングシネマ賞」を受賞。「まぶだち」は、2001年ロッテルダム国際映画祭で「タイガーアワード」と「国際批評家連盟賞」をW受賞。2003年「ロボコン」。「さよならみどりちゃん」は2005年仏ナント3大陸国際映画祭準グランプリを受賞。監督作に2008年「奈緒子」「ホームレス中学生」、2010年「武士道シックスティーン」、2013年「『また、必ず会おう』と誰もが言った」、2014年「無花果の森」、2018年「サクランぼの恋」、2020年「のぼる小寺さん」など。

入場無料

第21回 自主制作映画コンテスト 受賞作品・ノミネート作品 上映スケジュール

11月18日(土)・11月19日(日) 犀の角

※席数50、満席の場合と上映途中は入場できません。
※各作品上映後、5分間の監督舞台挨拶あり。

11月18日(土) 会場：犀の角 席数 50				11月19日(日) 会場：犀の角 席数 50			
時 間	作 品 名	監督お名前	時間(分)	時 間	作 品 名	監督お名前	時間(分)
8:30	開 場			8:30	開 場		
9:00～9:25	「さまよえ記憶」	野口 雄大	24分33秒	9:00～10:19	「平坦な戦場で」	遠上 恵未	79分
	舞台あいさつ+休憩				舞台あいさつ+休憩		
9:35～10:03	「私の愛を疑うな」	浅田 若奈	28分	10:29～11:44	「恋も噂も七十五日」	新庄凜々子	75分
	舞台あいさつ+休憩				舞台あいさつ+休憩		
10:13～10:43	「ゴミ屑と花」	大黒 友也	29分56秒	12:35～14:43	「そろそろ音楽をはじめようと思う」	小野 親一	128分
	舞台あいさつ+休憩				舞台あいさつ+休憩		
10:53～11:58	「エイジ オブ エターナル」	目黒 貴之	65分	14:53～15:15	「春の結晶」	安川 徳寛	22分
	舞台あいさつ+休憩				舞台あいさつ+休憩		
12:45～13:07	「最後の生活」	渡邊 高章	22分	15:25～15:45	「ドキュメント石垣 2023年3月 陸自ミサイル基地開設の瞬間」	湯本 雅典	20分
	舞台あいさつ+休憩				休 憩		
13:17～15:25	「ゴールド」	知多 良	128分	15:50～17:28	「ブライトロード303号室 奥田美紀様宛て」	白田悠太	98分
	舞台あいさつ+休憩				舞台あいさつ		
15:40～16:09	「abend」	高橋 佑輔	29分	18:20～	大賞作品上映：上田映劇にて		
	舞台あいさつ+休憩			各賞上映会 11月25日(土) 26日(日) 会場：上田市マルチメディア情報センター ホール 席数：200 入場無料 上映時間は、11月18日(土)に各賞が発表されたのち、 コンテストのホームページでお知らせします。 お問い合わせは、下記のマルチメディア情報センターへ。			
16:19～17:00	「にびさびの巣」	岡田 深	41分				
	舞台あいさつ+休憩						
17:10～17:29	「たまには蜂蜜を。」	邊 拓耶	19分				
	舞台あいさつ						
17:55～19:25	表 彰 式：上田映劇	司会 大岩堅一	?分				
大賞・審査員賞は表彰式に於いて発表 大賞作品上映は、19日(日) 上田映劇にて							

＜うへだ城下町映画祭自主制作映画コンテストについて＞

上田の映画文化の振興と若手映画制作者の支援を目的に、2003年から行っています。15分から2時間前後の作品まで、ドラマ、アニメ、ドキュメンタリーなど全国から作品が集まり、21回目となる今回は131作品の応募がありました。

お問い合わせ：上田市マルチメディア情報センター TEL0268-39-1000 コンテストHP：<https://www.umic.jp/eigact/index.html>

アート引越センター長野

〒386-0005 上田市古里1620-1
TEL 0120-250-123



株式会社イデタ製作所

〒386-0004 上田市殿城矢沢1605
TEL (0268)22-2472

こいにし 千曲川の味とロマン 鯉 西つけば小屋

ニシザワ
TEL.0268-23-2438

お召し上がりに来られる際はご予約をおすすめします。
上田市常田1-5 上田駅温泉口より徒歩5分
営業時間／11:00～21:00

(株) 武重商会

〒386-0018 上田市常田2-20-26
TEL (0268)22-6111



SBC信越放送 上田放送局

〒386-0025 上田市天神1-8-37
TEL (0268)24-2141

映画館で見る
映画のように。
本店は小さな
別世界である。



みすゞ飴本舗上田本店
〒386-0012 上田市中心 1-1-21 TEL.(0268)75-7620

信州上田の地酒



福無量
ふくむりょう

元禄年間(1688-1704)創業
沓掛酒造株式会社
〒386-0043 上田市下塩尻35番地
TEL (0268)-22-1903
HP <http://www.fukumuryo.co.jp/>

福無量 真田幸村甲冑ラベル

